

はじめに

本市は「しあわせ倍増プラン 2013」や「さいたま市成長戦略」等の推進により「しあわせ実感都市 選ばれる都市」の実現を目指しています。現在の人口は127万人を有し、本市は日本を代表する大都市として成長を続けてきています。



人口減少・高齢化の進展、都市の防災性の向上、インフラ老朽化への対応等の諸課題を見据え、今後も良好な住環境を持続していくためには、従来のようにインフラ整備や土地利用コントロール等を通じて都市の形を整えるだけでなく、持てる資源を最大限に活用して、効率的・効果的に都市機能を高めていくことが必要です。

そこで、住宅地におけるまちづくりのモデルとなる「与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン」を策定し、歴史・文化等の地域資源を活用しながら、中央区役所をはじめとする公共施設の再編や駅周辺の利便性、住環境の向上等から、暮らしやすく魅力的なまちを目指します。また、本プランの推進に当たっては、地域の方々や将来像やまちづくりの方針等を共有し、地域と市の協働で積極的に進めてまいります。

最後に、本プランの策定に当たり、市民アンケートやワークショップ、パブリック・コメント等を通じて貴重なご意見をいただきました市民の皆様、多大なるご尽力をいただきました「さいたま市与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン策定委員会」及び「与野本町駅周辺地区まちづくりあり方懇話会」の委員の皆様から心より感謝申し上げます。

平成27年11月

さいたま市長 清水 勇人

与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープランへの期待

さいたま市の都心である大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区に隣接した与野本町駅周辺は、旧与野市の時代より市街地整備が進み、都市基盤施設が比較的整っている地区です。地区内には多くの公共施設が立地するとともに、東京都心へはJR埼京線で乗り換えなしでアクセスできることなどから、暮らしやすい住宅地が形成されています。



一方、わが国の成長から成熟へと転機を迎えつつある都市において、古くから形成されてきた住宅地では、少子高齢化の進展による高齢単身世帯の増加や人口減少による人口密度の低下などから、地域の活気や魅力の低下が懸念されています。近年、与野本町駅周辺地区においても地区内の人口が増加から減少に転じるなど、住宅地における全国的な問題の兆しが見え始めてきています。

こうした状況を踏まえ、地区内の方を交えた委員会で約1年に亘り議論を重ね、地域の特性を生かし、今あるストックを上手に使いながら、持続可能な住宅地としていくための方針となる「与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン(素案)」をまとめました。

本プランでは、老朽化した公共施設のリニューアルや安全・安心に暮らしていくための道路及び街並みの改善方策など、成熟した住宅地に必要なまちづくりの取組を幅広く盛り込むとともに、それらの一体的な推進に向け6つのリーディングプロジェクトを位置付けています。

今後は、このプランに沿って地域と行政が互いの役割を認識し、協働でまちづくりが進むことを望みます。さらに、それらの取組が住民や事業主等が主体になり良好な環境や地区の価値を向上させる「住宅地のエリアマネジメント」に発展し、さいたま市の住宅地におけるまちづくりのモデルとなることを期待します。

最後に、熱心にご議論いただきました「さいたま市与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン策定委員会」及び「与野本町駅周辺地区まちづくりあり方懇話会」の委員各位、また、ワークショップやアンケート等にご協力いただきました市民の方々に感謝申し上げます。

さいたま市与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン策定委員会

会長 中井 検裕

● 目 次 ●

第1章 計画の策定に当たって	1
1. 背景と目的	2
2. 計画期間	3
3. 位置付け	3
4. 対象範囲	4
5. プランの構成	5
第2章 地区の特性	7
1. 上位計画の整理	8
2. 広域的なまちづくりの観点からみた与野本町駅周辺地区の役割	10
3. まちづくりの課題	11
第3章 まちの将来像とまちづくりの方針	19
1. まちの将来像	20
2. まちづくりの基本的な考え方	20
3. まちづくりの方針	21
4. 将来のまちの構造	23
第4章 まちづくりの取組	27
第5章 リーディングプロジェクト	43
1. リーディングプロジェクトの考え方	44
2. リーディングプロジェクトの内容	46
第6章 まちづくりを着実に進めるために	65
1. まちづくりの主体と役割	66
2. 今後の進め方	67
3. まちづくりの推進体制の構築に向けて	68
資料編	71

